

防藻・防かび剤入り

高意匠性・水性特殊架橋形塗材

個性創造仕上塗材

ニュートーン

セラミック配合
シリコン系

NEWTONE

商品説明書
施工要領書

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆

内装仕上げの制限なし



Creative Design

人の感性・モノの個性
厳選されたテクスチャー
とトレンドカラー
から新イメージをクリエート
してください。

テクスチャーパターン

吹付工法

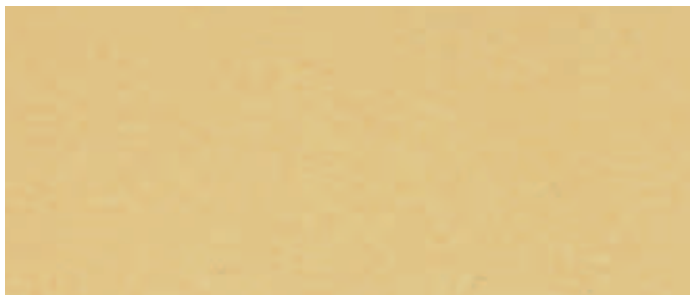
▼ジュラク仕上げ

国土交通大臣認定防火材料



(仕様P9)

▼ゆず肌仕上げ



(仕様P10)

▼凹凸仕上げ



(仕様P11)

▼スタッコ仕上げ



(仕様P12)

▼マーブル仕上げ



(仕様P13)

ロー工法

▼さざなみ仕上げ

国土交通大臣認定防火材料



(仕様P14)

▼さざなみライン仕上げ

国土交通大臣認定防火材料



(仕様P15)

▼さざなみ押え仕上げ



(仕様P16)

▼レリーフ仕上げ



(仕様P17)

▼レリーフ押え仕上げ

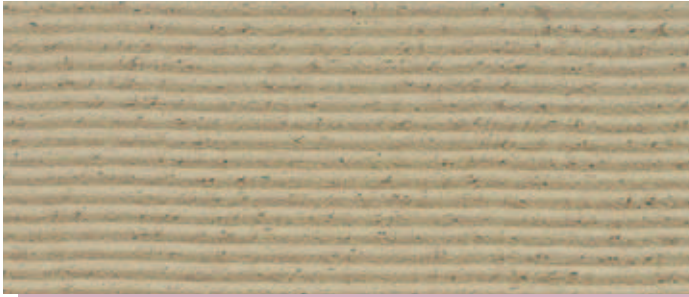


(仕様P18)

※見本は写真印刷ですので、実際の仕上りとは多少異なります。
またこの印刷色でのご注文は、避けてください。

コテ工法

▼くし引き仕上げ



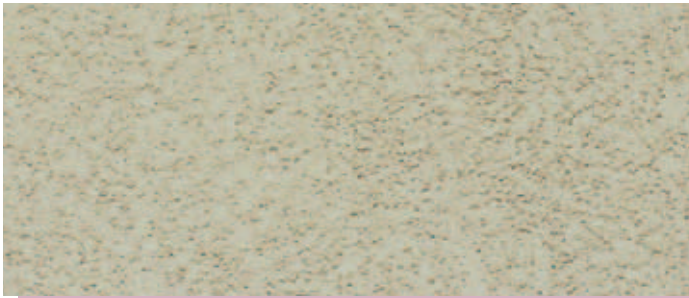
(仕様P19)

▼ストレート仕上げ



(仕様P23)

▼洗い出し仕上げ



(仕様P20)

▼ランダム仕上げ



(仕様P24)

▼ブツ仕上げ



(仕様P21)

▼フロー仕上げ



(仕様P25)

▼サークルブツ仕上げ



(仕様P22)

▼フロー2色仕上げ



(仕様P26)

▼砂岩仕上げ



(仕様P27)

テクスチャーパターン用塗装器具



■ラフトン1号ガン



■ラフトン3号ガン



■ラフトン4号ガン



■カットローラー



■パターンローラー



■パターンローラー細目



■ウールローラー



■デザインローラー
(SZ-13)



■ポラスローラー
(SZ-07)



■ダスター刷毛



■木ゴテ



■金ゴテ



■くし目ゴテ (ぎざぎざ君パターン2号)
株式会社かねみつ製

目次

特長・用途 4

性能試験 5

適用下地 6

施工手順 7-8

標準施工仕様 9

- ・ジュラク仕上げ 9
- ・ゆず肌仕上げ 10
- ・凹凸仕上げ 11
- ・スタッコ仕上げ 12
- ・マーブル仕上げ 13
- ・さざなみ仕上げ 14
- ・さざなみライン仕上げ 15
- ・さざなみ押え仕上げ 16
- ・レリーフ仕上げ 17
- ・レリーフ押え仕上げ 18
- ・くし引き仕上げ 19
- ・洗い出し仕上げ 20
- ・ブツ仕上げ 21
- ・サークルブツ仕上げ 22
- ・ストレート仕上げ 23
- ・ランダム仕上げ 24
- ・フロー仕上げ 25
- ・フロー2色仕上げ 26
- ・砂岩仕上げ 27

施工上の注意事項 28

取扱い上の注意事項 28

荷 姿 28

- ▶ 厳しい自然環境に屈しない強さ。
- ▶ 住む人が実感できる優しさ。
- ▶ もっともっと個性的に、表情豊かに。

防藻・防かび剤入り
高意匠性・水性特殊架橋形塗材

個性創造仕上塗材

ニュートーン

セラミック配合
シリコン系

- 壁面仕上げには、丈夫な耐久力や機能性、周辺景観との調和、環境への配慮などが求められます。これに加えて、人にはそれぞれの表情や個性があるように、壁面にも表情・個性を主張したいものです。特に合理性、利便性を追求して、殺風景な仕上りに、なりがちな外壁には……
- 日本の古来より受け継がれている土壁や、伝統的なしっくい仕上げ、またヨーロッパなどで見られるスタッコ風の厚付け仕上げには、自然に溶け込む質感・風合いがあって、落ち着きを与えると同時に心を和らげてくれます。またそこには、個々の表現が生かされています。
- コテやローラーで仕上げる手造りのテクスチャーパターン、また太陽光線の陰影で描き出される模様は、一見”むら”のように見えますが、これが独特な味、高級感となって漂います。ニュートーンは、この豊富な表情と個性を尊重しました。厳選されたテクスチャーとトレンドカラーから新イメージをクリエイトしてください。

特長 ● 高意匠

テクスチャーパターンが自由に創れ、豊富なカラーバリエーションは美しさを助長させます。

● 高性能

特殊架橋形樹脂で形成する塗膜は、微弾性・耐候性透湿性・防かび性・防藻性などの優れた機能を兼ね備えています。

● 新感性

厚付けによる風格のある格調高い仕上がりは、また新たな感性を引き出します。

用途 ● 各種建物 外壁・内壁

公共建築物
戸建住宅
店舗
各種商業空間
オフィスビル
ホテル・マンション

● 省力化

下塗り+主材塗りで、仕上げられますので、工程と工期の短縮が図れます。また水性塗材ですので施工性が抜群です。



性能試験

JIS A 6909 建築用仕上塗材 可とう形外装薄塗材E及び外装厚塗材Eによる試験

試験項目	結果	品質規格
低温安定性	合格	塊がなく、組成物の分離及び凝集がないこと。
初期乾燥によるひび割れ抵抗性	合格	ひび割れがないこと。
付着強さ	標準状態	1.5 0.5N/mm ² 以上
	浸水後	0.7 0.3N/mm ² 以上
温冷繰返し	合格	試験体の表面に、ひび割れ、はがれ及び膨れがなく、かつ、著しい変色及び光沢低下がないこと。
透水性 A法	0	10.0mm以下
耐洗浄性	合格	はがれ及び摩耗による基板の露出がないこと。
耐衝撃性	合格	ひび割れ、著しい変形及びはがれがないこと。
耐アルカリ性 A法	合格	ひび割れ、はがれ、膨れ及び軟化溶出がなく、浸さない部分に比べて、くもり及び変色が著しくないこと。
耐候性 A法	合格	ひび割れ及びはがれがなく、変色の程度がグレースケール3号以上であること。
可とう性	合格	ひび割れがないこと。

日本塗料検査協会による試験結果

試験項目	結果	試験方法・品質規格
透湿度	120	JIS Z 0208による透湿カップ法 (g/m ² ・24h)
耐汚染性	合格	屋外暴露試験(6か月)色差(ΔE)が5以下。
耐微生物性	かび抵抗性	合格 JIS Z 2911(かび抵抗性試験方法)による。 塗面にかびが発生しないこと。
	藻類抵抗性	合格 寒天培地法による。 塗面に藻の発生がないこと。

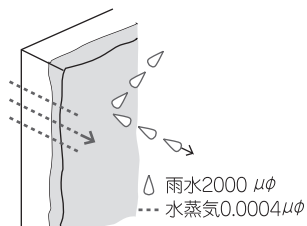
特 性

微弾性

微弾性塗膜は、下地のヘアークラックに追従し、雨水の浸入を防ぎます。

透湿性

塗膜は、水蒸気透過性に優れますので、内部結露・凍害・塗膜のはくりなどの抑制効果があります。



防藻性・防かび性

特殊な防藻剤・防かび剤の配合により、藻・かびの繁殖を防ぎます。

耐候性

シリコン系架橋形樹脂を使用していますので、優れた耐候性を発揮します。

低汚染性

セラミック配合により、低汚染性に優れます。

適用下地

- コンクリート・セメントモルタル・PCパネル・ALCパネル・押出成形セメント板・スレート

下地調整

- ニュートーンは、下地の状態が仕上がりに大きく影響しますので、施工前には下地の状態の確認・調整を行い、入念な下地調整を実施してください。

工程	施工内容
1 下地調整	<ul style="list-style-type: none">• 下地は十分に乾燥させ、含水率10%以下、pH 10以下とする。コンクリート及びモルタル下地の養生期間の目安は夏季2週間、冬期4週間以上。• 下地に付着している汚れ・土砂・油分・エフロレッセンスによる白粉、未硬化セメント粉などはブラシ、サンドペーパーなどで除去し、必要に応じて水洗いする。• 下地の不陸、段違いはサンダーで平らにして、クラック・巣穴・ジャンカなどはラフトンフィラーで補修する。

各下地の補修

コンクリート

- 全面補修を基準とし、ラフトンフィラーを塗り付け平滑にしてください。尚、離型剤が付着している場合は必ずシンナーで拭き取ってください。

セメントモルタル

- 金ゴテ仕上げを基本としてください。粉化物は除去してください。

PCパネル

- 巣穴はラフトンフィラーで埋めてください。尚、離型剤が付着している場合は必ずシンナーで拭き取ってください。

ALCパネル

- ラフトンフィラーまたはスズカブラサフで、全面下地調整してください。

押出成形セメント板

- ラフトンカチオンフィラーで、全面下地調整してください。または、下塗りにクリヤーシーラーEPO、ホワイトシーラーEPOを使用してください。

シーリング材

- ラフトン逆プライマーを塗付してください。
ポリサルファイド系シーリング材の場合、ラフトン逆プライマーを2回塗りしてください。
シリコン系シーリング材、ブチル系シーリング材には施工を避けてください。

塗替下地

- 下地強度は $0.5\text{N}/\text{mm}^2$ ($5\text{kgf}/\text{cm}^2$) 以上であることを確認してください。
- 高圧水洗を行い、ぜい弱旧塗膜、粉状物、汚れなどを取り除いてください。
- ひび割れ、欠損など躯体の補修は、事前に処理を行ってください。
- 段差修正、下地調整にはラフトンフィラー、ラフトンカチオンフィラーなどを使用して、できるだけ平滑にしてください。
- ぜい弱な下地の場合は溶剤系シーラー（ワイドシーラーEPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラー）を試験塗りし、下地（旧塗膜）への悪影響がないことを確認した上で塗装し、十分乾燥させてください。

施工手順 〈標準工程〉

下塗り

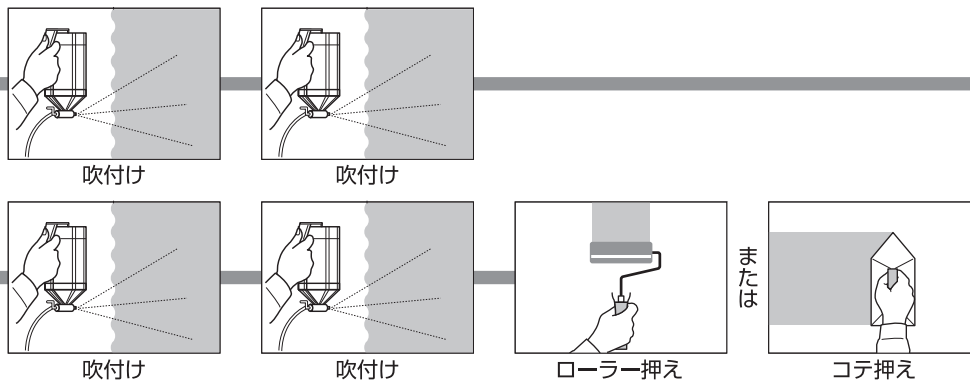
主材基層塗り

主材模様塗り



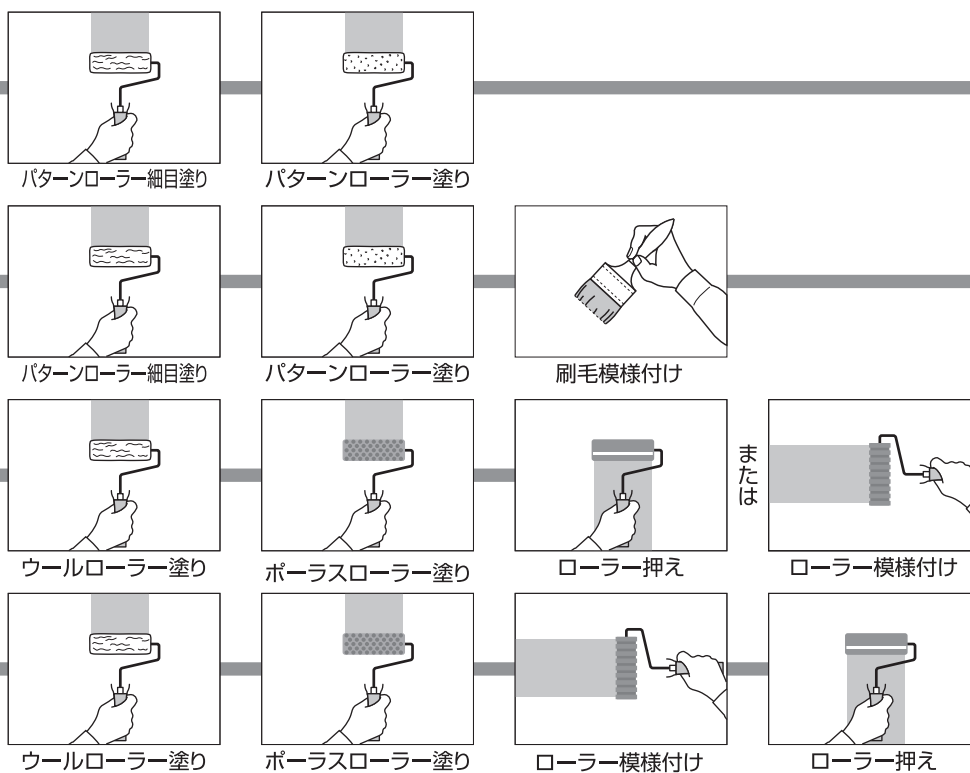
吹付工法

- はけ塗り
- ウールローラー塗り
- エアレス塗り



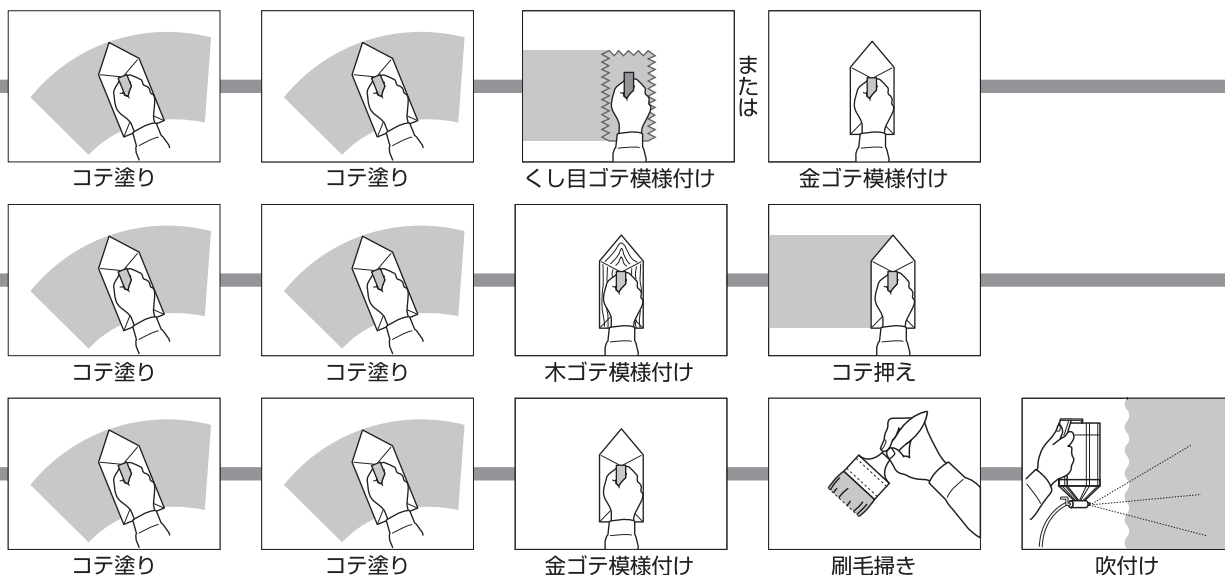
ローラー工法

- はけ塗り
- ウールローラー塗り
- エアレス塗り



コテ工法

- はけ塗り
- ウールローラー塗り
- エアレス塗り

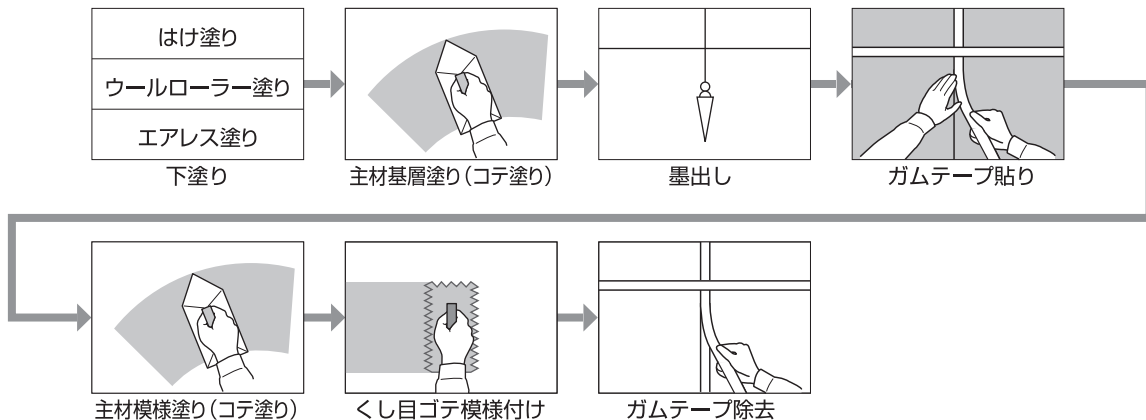


化粧目地・額縁工法

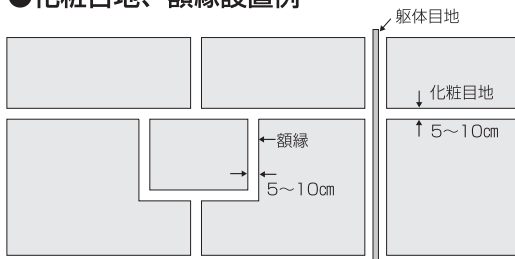
例：くし引き仕上げの場合

- ジュラク仕上げ
- ゆず肌仕上げ
- 凹凸仕上げ

- スタッコ仕上げ
- マーブル仕上げ



●化粧目地、額縁設置例



- 化粧目地は、躯体目地を生かすことを基本に設定してください。
- 化粧目地は縦約2m、横約3mの間隔で、目地幅は5~10cmが適当です。
- 開口部廻り、入隅、出隅などには5~10cm幅の額縁を取ってください。

- さざなみ仕上げ

- さざなみライン仕上げ

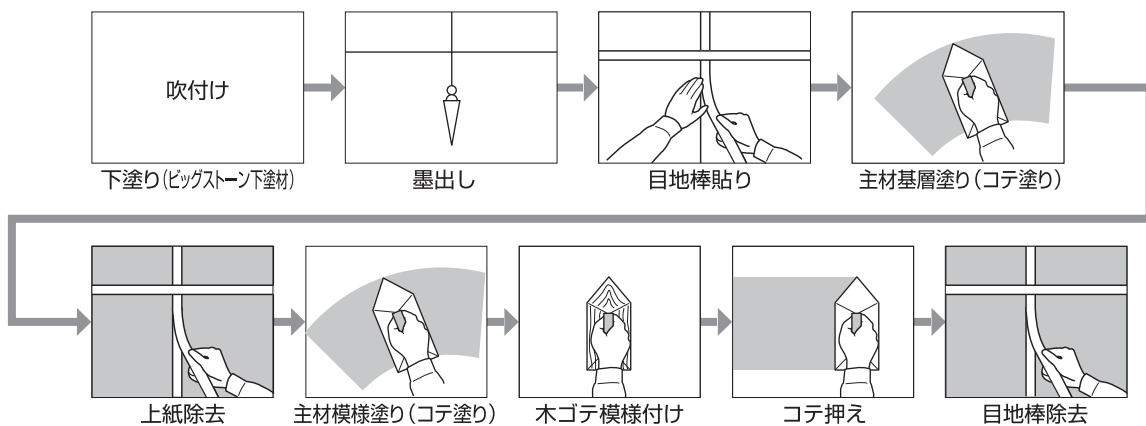
目地棒工法

●本工法の場合は、下塗りにビッグストーン下塗材を使用します。下塗りは目地色となります。ビッグストーン下塗材にはグレー、ブラックがあります。

例：ブツツ仕上げの場合

- さざなみ押え仕上げ
- レリーフ仕上げ

- レリーフ押え仕上げ

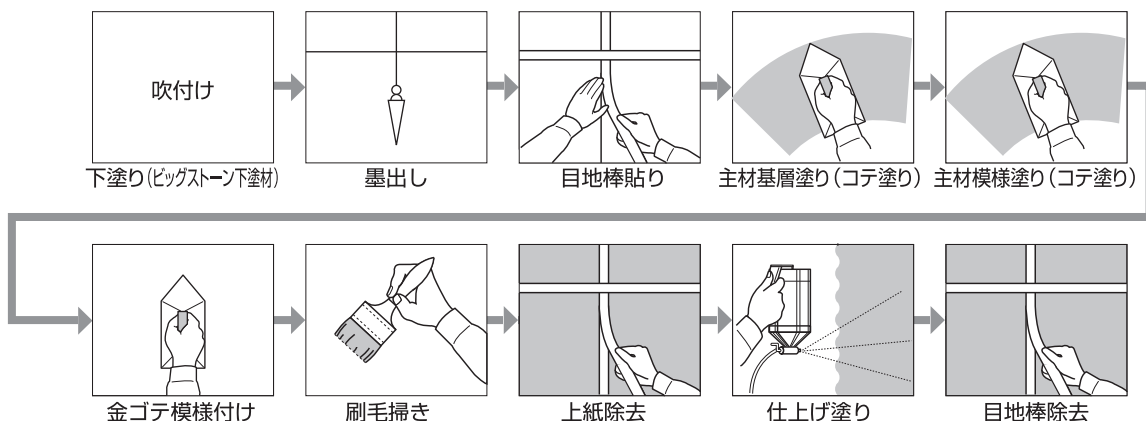


- くし引き仕上げ
- ストレート仕上げ
- ランダム仕上げ
- フロー仕上げ
- フロー2色仕上げ

- 洗い出し仕上げ
- ブツツ仕上げ
- サークルブツツ仕上げ

- 砂岩仕上げ

例：砂岩仕上げの場合



ジュラク仕上げ

吹付工法

国土交通大臣認定防火材料

認定番号	品目名
NM-8572	有機質砂壁状塗料塗り／不燃材料
QM-9812	有機質砂壁状塗料塗り／準不燃材料
RM-9361	有機質砂壁状塗料塗り／難燃材料

施工仕様

工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1	下地調整	(P6を参照してください。)				
2	下塗り	サンプラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上 はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	主材基層塗り	ニュートーン 清水	100 10~15	0.3~0.5	1	16時間以上 吹付け
4	主材模様塗り	ニュートーン 清水	100 10~15	0.3~0.5	1	(最終養生) 24時間以上 吹付け

施工要領

工程2. 下塗り

- サンプラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整してください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サンプラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラー-EPO、ワイドシーラー-EPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り



- ニュートーン (20kg) をハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を加え (2~3kg) 粘度を調整してください。
- 吹付条件
(ガン……………ラフトン1号ガン、または万能ガン 口径……………4~6mm)
(吹圧条件……………0.3~0.6MPa 吹付距離……………25~50cm)
ガンのノズルを下地面に対して直角に保ち、吹付条件、運行速度を常に一定にしなが、むらを生じないように、均一に吹付けてください。(月面状〔凹状〕模様ができないように)

工程4. 主材模様塗り



- ニュートーン (20kg) をハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を加え (2~3kg) 粘度を調整してください。
- 吹付条件
(ガン……………ラフトン1号ガン、または万能ガン 口径……………4~6mm)
(吹圧条件……………0.3~0.6MPa 吹付距離……………25~50cm)
ガンのノズルを下地面に対して直角に保ち、吹付条件、運行速度を常に一定にしなが、むらを生じないように、均一に吹付けてください。(月面状〔凹状〕模様ができないように)

ゆず肌仕上げ

吹付工法

施工仕様

工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1	下地調整	(P6を参照してください。)				
2	下塗り	サンプラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上 はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	主材基層塗り	ニュートン 清水	100 10~15	0.3~0.5	1	16時間以上 吹付け
4	主材模様塗り	ニュートン 清水	100 5~10	0.8~1.0	1	(最終養生) 24時間以上 吹付け

施工要領

工程2. 下塗り

- サンプラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整してください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サンプラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラーEPO、ワイドシーラーEPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り



- ニュートンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を10~15%の範囲で加え、粘度調整してください。
- 吹付条件
 (ガン…………ラフトン1号ガン、または万能ガン 口径……………4~6mm
 吹付圧……………0.3~0.6MPa 吹付距離……………25~50cm)
 ガンのノズルを下地面に対して直角に保ち、吹付条件、運行速度を常に一定にしなが
 ら、むらを生じないように、均一に吹付けてください。(月面状〈凹状〉模様ができないよ
 うに)

工程4. 主材模様塗り



- ニュートンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を5~10%の範囲で加え、粘度調整してください。
- 吹付条件
 (ガン…………ラフトン1号ガン、または万能ガン 口径……………6.0mm
 吹付圧……………0.3~0.5MPa 吹付距離……………25~50cm)
 吹付条件、運行速度を常に一定にしなが
 ら、均一に吹付けてください。

凹凸仕上げ

吹付工法



施工仕様

工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法	
1	下地調整	(P6を参照してください。)					
2	下塗り	サンプラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	主材基層塗り	ニュートン 清水	100 10~15	0.3~0.5	1	16時間以上	吹付け
4	主材模様塗り	ニュートン 清水	100 0~5	1.0~1.2	1	(最終養生) 24時間以上	吹付け

施工要領

工程2. 下塗り

- サンプラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整してください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サンプラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラーEPO、ワイドシーラーEPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り



- ニュートンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を10~15%の範囲で加え、粘度調整してください。
- 吹付条件
 (ガン…………ラフトン1号ガン、または万能ガン 口径……………4~6mm)
 (吹付圧……………0.3~0.6MPa 吹付距離……………25~50cm)
 ガンのノズルを下地面に対して直角に保ち、吹付条件、運行速度を常に一定にしなが
 ら、むらを生じないように、均一に吹付けてください。(月面状〈凹状〉模様ができないよ
 うに)

工程4. 主材模様塗り



- ニュートンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を0~5%の範囲で加え、粘度調整してください。
- 吹付条件
 (ガン…………ラフトン3号ガン、または万能ガン 口径……………6.5~8mm)
 (吹付圧……………0.3~0.6MPa 吹付距離……………25~50cm)
 吹付条件、運行速度を常に一定にしなが、均一に吹付けてください。

スタッコ仕上げ

吹付工法



施工仕様

工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1	下地調整	(P6を参照してください。)				
2	下塗り	サンプラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上 はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	主材基層塗り	ニュートーン 清水	100 10~15	0.3~0.5	1	16時間以上 吹付け
4	主材模様塗り	ニュートーン 寒水石5厘 寒水石3厘 清水	100 25 25 3~8	1.5~2.0	1	10分以内 吹付け
5	ローラー押え	(カットローラーによる押え。)				(最終養生) 48時間以上

施工要領

工程2. 下塗り

- サンプラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サンプラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラー-EPO、ワイドシーラー-EPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り



- ニュートーンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を10~15%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- 吹付条件
(ガン…………ラフトン1号ガン、または万能ガン 口径…………4~6mm)
(吹付圧…………0.3~0.6MPa 吹付距離…………25~50cm)
ガンのノズルを下地面に対して直角に保ち、吹付条件、運行速度を常に一定にしながら、むらを生じないように、均一に吹付けてください。(月面状〈凹状〉模様ができないように)

工程4. 主材模様塗り



- ニュートーン(20kg)に寒水石5厘(5kg)寒水石3厘(5kg)を混入し、十分にかくはんしてください。さらに清水(0.6~1.6kg)の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- 吹付条件
(ガン…………ラフトン4号ガン 口径…………8~12mm)
(吹付圧…………0.3~0.5MPa 吹付距離…………25~50cm)
吹付条件、運行速度を常に一定にしながら、均一に吹付けてください。

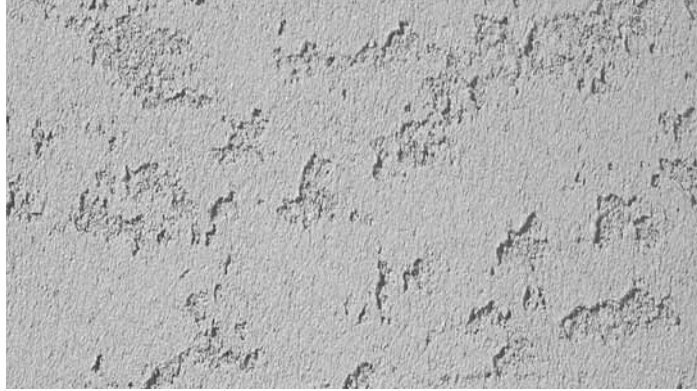
工程5. ローラー押え



- 主材が乾燥しないうちに塗料用シンナーを湿したカットローラーで主材の凸部を均一に押えてください。

マーブル仕上げ

吹付工法



施工仕様

工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/㎡/回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1	下地調整	(P6を参照してください。)				
2	下塗り	サンプラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上 はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	主材基層塗り	ニュートン 清水	100 10~15	0.3~0.5	1	16時間以上 吹付け
4	主材模様塗り	ニュートン 清水	100 0~5	1.5~2.0	1	10分以内 吹付け
5	コテ押え	(金ゴテによる押え。)				(最終養生) 48時間以上

施工要領

工程2. 下塗り

- サンプラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サンプラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラーEPO、ワイドシーラーEPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り



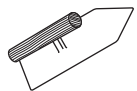
- ニュートンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を10~15%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- 吹付条件
 (ガン…………ラフトン1号ガン 口径……………4~6mm
 吹付圧……………0.3~0.6MPa 吹付距離……………25~50cm)
- ガンのノズルを下地面に対して直角に保ち、常に吹付条件、運行速度を常に一定にしなげら、むらを生じないように、均一に吹付けてください。(月面状〈凹状〉模様ができないように)

工程4. 主材模様塗り



- ニュートンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を0~5%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- 吹付条件
 (ガン……………ラフトン4号ガン 口径……………8~12mm
 吹付圧……………0.3~0.5MPa 吹付距離……………25~50cm)
- 吹付条件、運行速度を常に一定にしなげら、均一に吹付けてください。

工程5. コテ押え



(注)

- ※ 塗りつぎ部は、むらになりやすいですから、主材模様塗り、凸部処理を素早く行うか、2~3m×2~3m以内で化粧目地を設けてください。

さざなみ仕上げ

ローラー工法

国土交通大臣認定防火材料

認定番号	品目名
NM-8572	有機質砂壁状塗料塗り／不燃材料
QM-9812	有機質砂壁状塗料塗り／準不燃材料
RM-9361	有機質砂壁状塗料塗り／難燃材料

施工仕様

工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1	(P6を参照してください。)					
2	サンプラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	ニュートーン 清水	100 10~15	0.3~0.4	1	16時間以上	ウールローラー塗り
4	ニュートーン 清水	100 2~5	0.3~0.5	1	(最終養生) 24時間以上	パターンローラー塗り

施工要領

工程2. 下塗り

- ・サンプラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ・ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- ・下塗りには、サンプラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラーEPO、ワイドシーラーEPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り



- ・ニュートーン (20kg) をハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を加え (2~3kg) 粘度を調整してください。
- ・ウールローラーを用い、均一に塗装してください。

工程4. 主材模様塗り



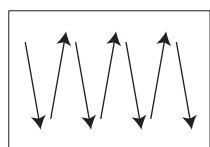
- ・ニュートーン (20kg) をハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を加え (0.4~1kg) 粘度を調整してください。
- ・模様塗りは、パターンローラーを用い、くばり塗り、ならし塗りの手順で塗装してください。(下記参照)

(パターンローラー
塗りの手順)

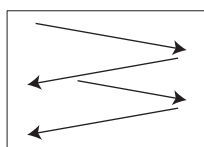
くばり塗り

ならし塗り

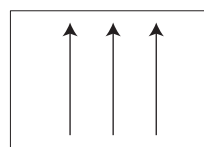
- ・パターンローラーはあらかじめ水に浸して絞って湿らします。
- ・パターンローラーに主材を十分含ませ、上下にかたよりのないよう塗りつけてください。
- ・くばり面積は縦1m、横80cmを1区切りとして5~8回のくばりが標準です。
- ・1区切りのくばり塗りを終わったら上下にローラーを転がします。次に横方向にローラーを軽く転がしムラ切りをします。
- ・ならし塗りは模様の一部となりますから、ローラーの転がし方向は同一方向 (下から上へ) でならしてください。



くばり塗り



ムラ切り



ならし塗り

さざなみライン仕上げ

ローラー工法

国土交通大臣認定防火材料

認定番号	品目名
NM-8572	有機質砂壁状塗料塗り／不燃材料
QM-9812	有機質砂壁状塗料塗り／準不燃材料
RM-9361	有機質砂壁状塗料塗り／難燃材料

施工仕様

工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1	(P6を参照してください。)					
2	サンプラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	ニュートーン 清水	100 10~15	0.3~0.4	1	16時間以上	ウールローラー塗り
4	ニュートーン 清水	100 2~5	0.3~0.5	1	0	パターンローラー塗り
5	刷毛模様付け (ダスター刷毛による模様付け)				(最終養生) 24時間以上	

施工要領

工程2. 下塗り

- サンプラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サンプラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラーEPO、ワイドシーラーEPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り



- ニュートーン (20kg) をハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を加え (2~3kg) 粘度を調整してください。
- ウールローラーを用い、均一に塗装してください。

工程4. 主材模様塗り



- ニュートーン (20kg) をハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を加え (0.4~1kg) 粘度を調整してください。
- くばり塗りは、パターンローラーを用い、くばり塗り、ならし塗りの手順で塗装してください。(P14参照)

工程5. 刷毛模様付け



ダスター刷毛

- ならし塗りした主材が乾燥しないうちに、ダスター刷毛により横引きで模様を付けてください。
- ダスター刷毛に付着した主材は、その都度取り除いてください。

さざなみ押え仕上げ

ローラー工法



施工仕様

工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法	
1	下地調整	(P6を参照してください。)					
2	下塗り	サミブラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上 はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り	
3	主材基層塗り	ニュートーン 清水	100 10~15	0.3~0.5	1	16時間以上 ウールローラー塗り	
4	主材模様塗り	ニュートーン 清水	100 2~5	2.0~3.0	1	0 ポラスローラー塗り	
5	ローラー押え	(カットローラーによる押え。)				(最終養生) 48時間以上	

施工要領

工程2. 下塗り

- サミブラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サミブラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラーEPO、ワイドシーラーEPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り



- ニュートーンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を10~15%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラーを用い、均一に塗装してください。

工程4. 主材模様塗り



- ニュートーンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を2~5%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- 模様塗りは、ポラスローラーを用い、くばり塗り、ならし塗りの手順で塗装してください。(P14参照)

工程5. ローラー押え



- 主材が乾燥しないうちに、塗料用シンナーに濡したカットローラーで、軽く一定方向(下から上へ)に転がし押えてください。

レリーフ仕上げ

ローラー工法



施工仕様

工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1	下地調整	(P6を参照してください。)				
2	下塗り	サンプラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上 はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	主材基層塗り	ニュートーン 清水	100 10~15	0.3~0.5	1	16時間以上 ウールローラー塗り
4	主材模様塗り	ニュートーン 清水	100 2~5	2.0~3.0	1	0 ポラスローラー塗り
5	ローラー模様付け	(デザインローラーによる模様付け。)				(最終養生) 48時間以上

施工要領

工程2. 下塗り

- サンプラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サンプラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラーEPO、ワイドシーラーEPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り



- ニュートーンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を10~15%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラーを用い、均一に塗装してください。

工程4. 主材模様塗り



- ニュートーンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を2~5%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- 模様塗りは、ポラスローラーを用い、くぼり塗り、ならし塗りの手順で塗装してください。(P14参照)

工程5. ローラー模様付け



- ならし塗りした主材が乾燥しないうちに、デザインローラーで一定方向(左から右へ)に転がしてください。

(注) ※塗りつぎ部は、むらになりやすいですから、主材模様塗り、模様付けを素早く行うか、2~3m×2~3m以内で化粧目地を設けてください。化粧目地を設ける場合は、主材基層塗り(工程3)を吹付けで行ってください。また標準所要量は0.8~1.0kg/m²としてください。

レリーフ押え仕上げ

ローラー工法



施工仕様

工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1	(P6を参照してください。)					
2	サンプラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	ニュートーン 清水	100 10~15	0.3~0.5	1	16時間以上	ウールローラー塗り
4	ニュートーン 清水	100 2~5	2.0~3.0	1	5分以内	ポラスローラー塗り
5	(デザインローラーによる模様付け。)				5分以内	
6	(カットローラーによる押え。)				(最終養生) 48時間以上	

施工要領

工程2. 下塗り

- サンプラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サンプラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラーEPO、ワイドシーラーEPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り



- ニュートーンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を10~15%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラーを用い、均一に塗装してください。

工程4. 主材模様塗り



- ニュートーンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を2~5%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- 模様塗りは、ポラスローラーを用い、くばり塗り、ならし塗りの手順で塗装してください。(P14参照)

工程5. ローラー模様付け



- ならし塗りした主材が乾燥しないうちに、デザインローラーで一定方向(左から右へ)に転がしてください。

工程6. ローラー押え

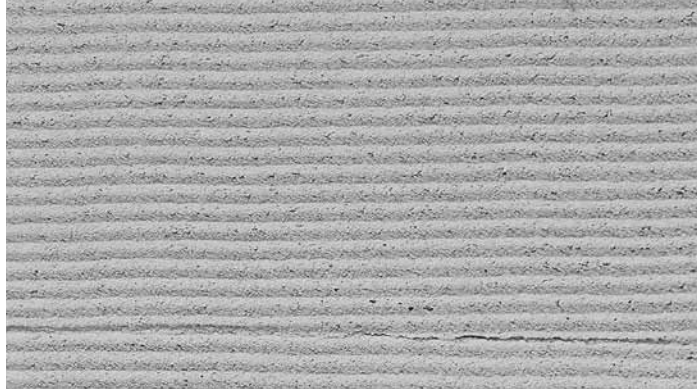


- 主材が乾燥しないうちに、塗料用シンナーに濡したカットローラーで、軽く一定方向(左から右へ)に転がし押えてください。

(注) ※塗りつき部は、むらになりやすいですから、主材模様塗り、模様付け、凸部処理を素早く行うか、2~3m×2~3m以内で化粧目地を設けてください。
化粧目地を設ける場合は、主材基層塗り(工程3)を吹付けで行ってください。また標準所要量は0.8~1.0kg/m²としてください。

くし引き仕上げ

コテ工法



施工仕様

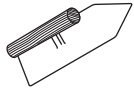
工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1	(P6を参照してください。)					
2	サミブラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	ニュートーン 清水	100 0~3	0.5~0.8	1	16時間以上	コテ塗り
4	ニュートーン 寒水石3厘 寒水石5厘 清水	100 25 25 0~3	2.5~3.5	1	0	コテ塗り
5	くし目ゴテ模様付け	(くし目ゴテによる模様付け。)			(最終養生) 48時間以上	

施工要領

工程2. 下塗り

- サミブラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サミブラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラー-EPO、ワイドシーラー-EPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り

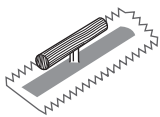


- ニュートーンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を0~3%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- 金ゴテを用い、均一にむらなく塗り付けてください。

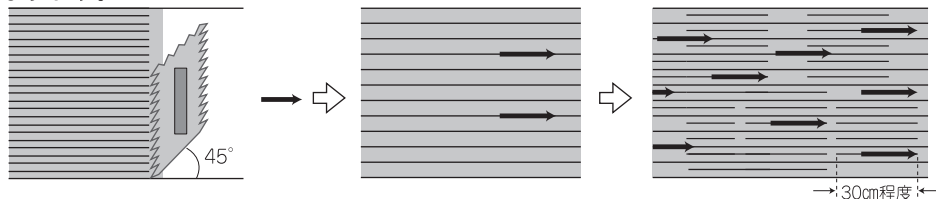
工程4. 主材模様塗り

- ニュートーン (20kg) に寒水石3厘 (5kg) 寒水石5厘 (5kg) を混入し、十分にかくはんしてください。清水を加え (0.6kg以内) 粘度調整をしてください。
- 金ゴテを用い、均一にむらなく塗り付けてください。

工程5. くし目ゴテ模様付け



- くし目ゴテを45度に傾けてパターン付けを行ってください。直線性を出すには、定規に沿ってくし目ゴテを横に動かします。
- 横にクシ引きした後、細かくパターン付けを行うことにより、パターンのつなぎ目部分が目立ちにくくなります。
- 同じ所を、2~3度こするようパターンを付けますと継ぎ目などのムラがわかりにくくなります。



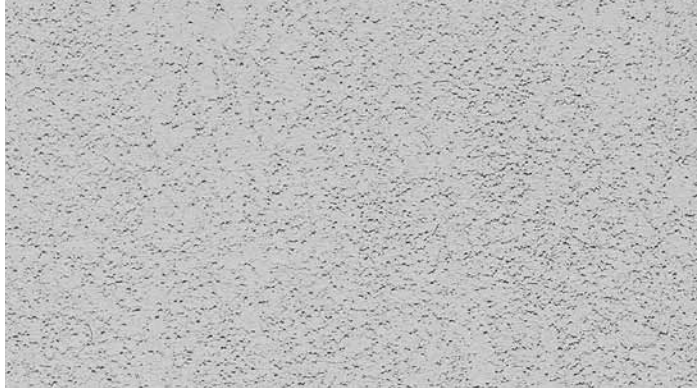
- (注)
- ※ 塗りつぎ部は、むらになりやすいですから、2~3m×2~3m以内で化粧目地を設けてください。模様の手直しを繰り返しますと、表面乾燥を生じ、正常の塗膜が形成されませんので、パターン付けは速やかに行ってください。
 - ※ パターン付けは、直線性が出ないと見苦しくなります。定規など補助道具の使用をおすすめします。
 - ※ くし目ゴテに附着した主材は、その都度取り除ききれいにしてください。
 - ※ 過剰希釈、及び過剰な塗り付け量は、割れなど生じることがありますので、ご注意ください。

備考

- 工程3.主材基層塗りは、吹付けによる塗り付けも可能です。(P9参照)

洗い出し仕上げ

コテ工法



施工仕様

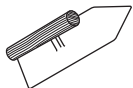
工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1	下地調整	(P6を参照してください。)				
2	下塗り	サンプラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上 はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	主材基層塗り	ニュートーン 清水	100 0~3	0.5~0.8	1	16時間以上 コテ塗り
4	主材模様塗り	ニュートーン 寒水石5厘 寒水石8厘 清水	100 50 50 4~6	2.5~3.5	1	0 コテ塗り
5	木ゴテ模様付け	(木ゴテにて寒水石をこすりながら転がす。)			5分以内	
6	コテ押え	(金ゴテによる押え。)			(最終養生) 48時間以上	

施工要領

工程2. 下塗り

- サンプラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サンプラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラーEPO、ワイドシーラーEPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り

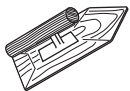


- ニュートーンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を0~3%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- 金ゴテを用い、均一にむらなく塗り付けてください。

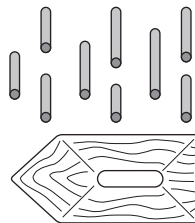
工程4. 主材模様塗り

- ニュートーン(20kg)に寒水石5厘(10kg)寒水石8厘(10kg)を混入し、十分にかくはんしてください。清水を加え(0.8~1.2kg)粘度調整をしてください。
- 金ゴテを用い、均一にむらなく塗り付けてください。

工程5. 木ゴテ模様付け



- 木ゴテで塗り面を押えつけながら縦方向に動かし、寒水石を転がして模様を付けてください。



→木ゴテは清水を湿らし、付着した塗材は取り除きながら模様付けしてください。
※この時、すじは強調せず、木ゴテでパターンをつける。

工程6. コテ押え

- 金ゴテで表面全体をならす感じで均一に押えてください。

(注)

- ※塗りつぎ部は、むらになりやすいですから、主材くばり塗り、模様付け、コテ押えを素早く行うか、2~3m×2~3m以内で化粧目地を設けてください。
模様の手直しを繰り返しますと、表面乾燥を生じ、正常の塗膜が形成されませんので、ご注意ください。
- ※過剰希釈、及び過剰な塗り付け量は、割れなど生じることがありますので、ご注意ください。

備考

- 工程3.主材基層塗りは、吹付けによる塗り付けも可能です。(P9参照)

プッツ仕上げ

コテ工法



施工仕様

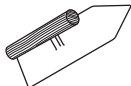
工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1	(P6を参照してください。)					
2	サンプラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	ニュートーン 清水	100 0~3	0.5~0.8	1	16時間以上	コテ塗り
4	ニュートーン 寒水石1厘 寒水石5厘 清水	100 25 50 3~5	2.0~3.0	1	0	コテ塗り
5	木ゴテ模様付け	(木ゴテにて寒水石をこすりながら転がす。)			5分以内	
6	コテ押え	(金ゴテによる押え。)			(最終養生) 48時間以上	

施工要領

工程2. 下塗り

- サンプラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サンプラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラーEPO、ワイドシーラーEPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り

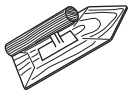


- ニュートーンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を0~3%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- 金ゴテを用い、均一にむらなく塗り付けてください。

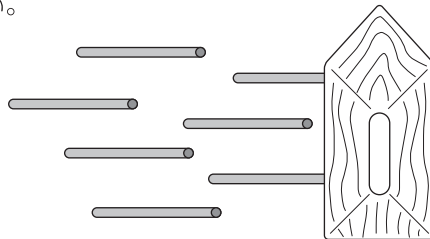
工程4. 主材模様塗り

- ニュートーン (20kg) に寒水石1厘 (5kg) 寒水石5厘 (10kg) を混入し、十分にかくはんしてください。清水を加え (0.6~1.0kg) 粘度調整をしてください。
- 金ゴテを用い、均一にむらなく塗り付けてください。

工程5. 木ゴテ模様付け



- 木ゴテで塗り面を押えつけながら横方向に動かし、寒水石を転がして模様を付けてください。



→木ゴテは清水を湿らし、付着した塗材はふきとりながら模様付けてください。

工程6. コテ押え

- 金ゴテで表面全体をならす感じで均一に押えてください。

- (注) ※塗りつき部は、むらになりやすいですから、主材模様塗り、模様付け、コテ押えを素早く行うか、2~3m×2~3m以内で化粧目地を設けてください。
 模様の手直しを繰り返しますと、表面乾燥を生じ、正常の塗膜が形成されませんので、ご注意ください。
 ※過剰希釈、及び過剰な塗り付け量は、割れなど生じることがありますので、ご注意ください。

備考

- 工程3.主材基層塗りは、吹付けによる塗り付けも可能です。(P9参照)

サークルプッツ仕上げ

コテ工法

施工仕様

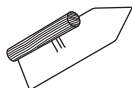
工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1	(P6を参照してください。)					
2	サンプラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	ニュートーン 清水	100 0~3	0.5~0.8	1	16時間以上	コテ塗り
4	ニュートーン 寒水石1厘 寒水石5厘 清水	100 25 50 3~5	2.0~3.0	1	0	コテ塗り
5	木ゴテ模様付け (木ゴテにて寒水石をこすりながら転がす。)				5分以内	
6	コテ押え (金ゴテによる押え。)				(最終養生) 48時間以上	

施工要領

工程2. 下塗り

- サンプラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サンプラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラーEPO、ワイドシーラーEPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り



- ニュートーンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を0~3%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- 金ゴテを用い、均一にむらなく塗り付けてください。

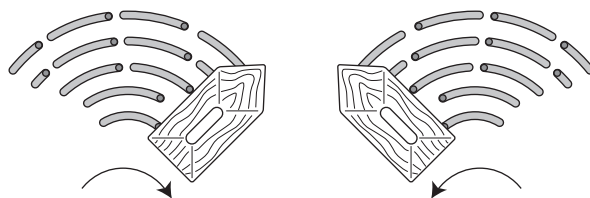
工程4. 主材模様塗り

- ニュートーン (20kg) に寒水石1厘 (5kg) 寒水石5厘 (10kg) を混入し、十分にかくはんしてください。清水を加え (0.6~1.0kg) 粘度調整をしてください。
- 金ゴテを用い、均一にむらなく塗り付けてください。

工程5. 木ゴテ模様付け



- 木ゴテで塗り面を押えつけながら半円を描くように動かし、寒水石を転がして模様を付けてください。



→木ゴテは清水を湿らし、付着した塗材はふきとりながら模様付けしてください。

工程6. コテ押え

- 金ゴテで表面全体をならす感じで均一に押えてください。

(注)

- ※塗りつき部は、むらになりやすいですから、主材模様塗り、模様付け、コテ押えを素早く行うか、2~3m×2~3m以内で化粧目地を設けてください。模様の手直しを繰り返しますと、表面乾燥を生じ、正常の塗膜が形成されませんので、ご注意ください。
- ※過剰希釈、及び過剰な塗り付け量は、割れなど生じることがありますので、ご注意ください。

備考

- 工程3.主材基層塗りは、吹付けによる塗り付けも可能です。(P9参照)

ストレート仕上げ

コテ工法



施工仕様

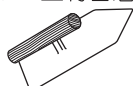
工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法	
1	下地調整	(P6を参照してください。)					
2	下塗り	サンプラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	主材基層塗り	ニュートン 清水	100 0~3	0.5~0.8	1	16時間以上	コテ塗り
4	主材模様塗り	ニュートン 清水	100 0~3	1.5~2.5	1	0	コテ塗り
5	金ゴテ模様付け	(金ゴテによる模様付け。)				(最終養生) 48時間以上	

施工要領

工程2. 下塗り

- サンプラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サンプラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラー-EPO、ワイドシーラー-EPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り



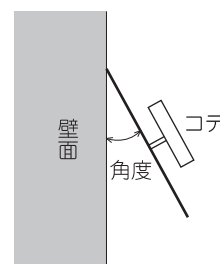
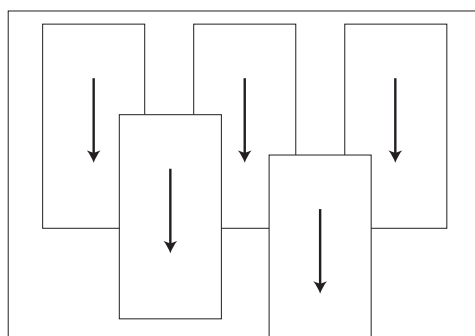
- ニュートンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を0~3%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- 金ゴテを用い、均一にむらなく塗り付けてください。

工程4. 主材模様塗り

- 金ゴテを用い、均一にむらなく塗り付けてください。

工程5. 金ゴテ模様付け

- 主材を全体にくばり塗りした後、コテすじを縦方向に模様付けしてください。
- 主材の塗り付け量、コテと壁面の角度によって模様が異なります。



- (注) ※塗りつき部は、むらになりやすいですから、主材模様塗り、模様付けを素早く行うか、2~3m×2~3m以内で化粧目地を設けてください。模様の手直しを繰り返しますと、表面乾燥を生じ、正常の塗膜が形成されませんので、ご注意ください。
- ※過剰希釈、及び過剰な塗り付け量は、割れなど生じることがありますので、ご注意ください。

備考

- 工程3.主材基層塗りは、吹付けによる塗り付けも可能です。(P9参照)

ランダム仕上げ

コテ工法



施工仕様

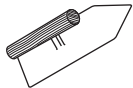
工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1	下地調整	(P6を参照してください。)				
2	下塗り	サミプラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上 はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	主材基層塗り	ニュートン 清水	100 0~3	0.5~0.8	1	16時間以上 コテ塗り
4	主材模様塗り	ニュートン 清水	100 0~3	1.5~2.5	1	0 コテ塗り
5	金ゴテ模様付け	(金ゴテによる模様付け。)				(最終養生) 48時間以上

施工要領

工程2. 下塗り

- サミプラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サミプラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラーEPO、ワイドシーラーEPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り



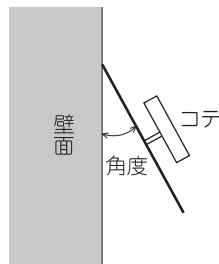
- ニュートンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を0~3%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- 金ゴテを用い、均一にむらなく塗り付けてください。

工程4. 主材模様塗り

- 金ゴテを用い、均一にむらなく塗り付けてください。

工程5. 金ゴテ模様付け

- 金ゴテを上下、左右に動かし、コテ足で模様付けしてください。主材の塗り付け量またコテと壁面の角度によって模様が異なります。



(注)

- ※ 塗りつき部は、むらになりやすいですから、主材模様塗り、模様付けを素早く行うか、2~3m×2~3m以内で化粧目地を設けてください。模様の手直しを繰り返しますと、表面乾燥を生じ、正常の塗膜が形成されませんので、ご注意ください。
- ※ 過剰希釈、及び過剰な塗り付け量は、割れなど生じることがありますので、ご注意ください。

備考

- 工程3.主材基層塗りは、吹付けによる塗り付けも可能です。(P9参照)

フロー仕上げ

コテ工法



施工仕様

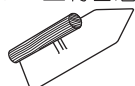
工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1	(P6を参照してください。)					
2	サミブラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	ニュートーン 清水	100 0~3	0.5~0.8	1	16時間以上	コテ塗り
4	ニュートーン 清水	100 0~3	1.5~2.5	1	0	コテ塗り
5	金ゴテ模様付け	(金ゴテによる模様付け。)			(最終養生) 48時間以上	

施工要領

工程2. 下塗り

- サミブラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サミブラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラーEPO、ワイドシーラーEPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り



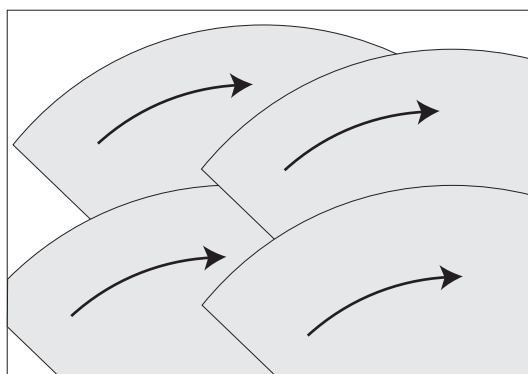
- ニュートーンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を0~3%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- 金ゴテを用い、均一にむらなく塗り付けてください。

工程4. 主材模様塗り

- 金ゴテを用い、均一にむらなく塗り付けてください。

工程5. 金ゴテ模様付け

- 主材を全体にくばり塗りした後、コテ先に少量の塗材を付け、扇状のコテすじを付けてください。



- (注) ※塗りつき部は、むらになりやすいですから、主材模様塗り、模様付けを素早く行うか、2~3m×2~3m以内で化粧目地を設けてください。
 模様の手直しを繰り返しますと、表面乾燥を生じ、正常の塗膜が形成されませんので、ご注意ください。
 ※過剰希釈、及び過剰な塗り付け量は、割れなど生じることがありますので、ご注意ください。

備考

- 工程3.主材基層塗りは、吹付けによる塗り付けも可能です。(P9参照)

フロー2色仕上げ

コテ工法



施工仕様

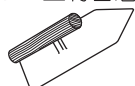
工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1	(P6を参照してください。)					
2	サミブラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	ニュートンA色 清水	100 0~3	0.5~0.8	1	16時間以上	コテ塗り
4	ニュートンA色・B色 清水	100 0~3	1.5~2.5	1	0	コテ塗り
5	金ゴテ模様付け (金ゴテによる模様付け。)				(最終養生) 48時間以上	

施工要領

工程2. 下塗り

- サミブラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サミブラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラーEPO、ワイドシーラーEPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

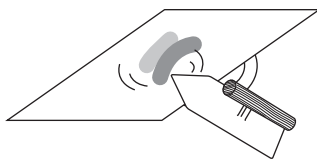
工程3. 主材基層塗り



- ニュートンA色をハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を0~3%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- 金ゴテを用い、均一にむらなく塗り付けてください。

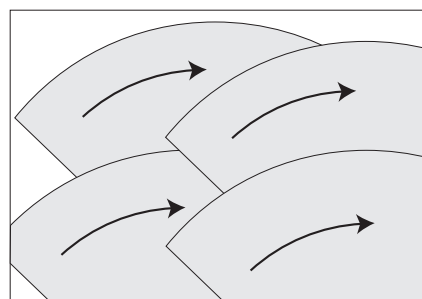
工程4. 主材模様塗り

- ニュートンA色及びB色をハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を0~3%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- ニュートンA色及びB色を定板の上で軽く混ぜた後、金ゴテを用い均一にむらなく塗り付けてください。



工程5. 金ゴテ模様付け

- 主材を全体にくばり塗りした後、コテ先に少量の塗材を付け、扇状のコテすじを付けてください。



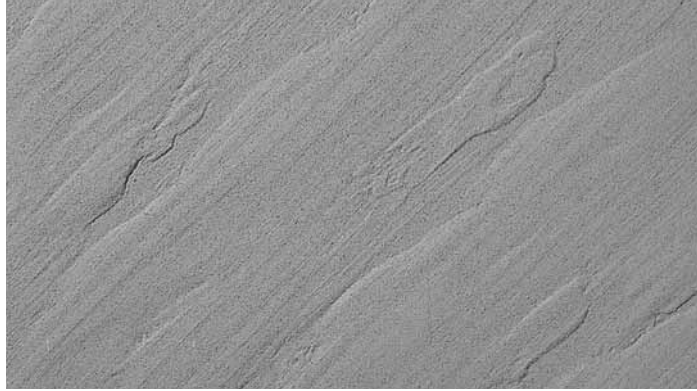
- (注) ※塗りつぎ部は、むらになりやすいですから、主材模様塗り、模様付けを素早く行うか、2~3m×2~3m以内で化粧目地を設けてください。
模様の手直しを繰り返しますと、表面乾燥を生じ、正常の塗膜が形成されませんので、ご注意ください。
※過剰希釈、及び過剰な塗り付け量は、割れなど生じることがありますので、ご注意ください。

備考

- 工程3.主材基層塗りは、吹付けによる塗り付けも可能です。(P9参照)

砂岩仕上げ

コテ工法



施工仕様

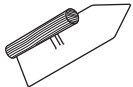
工程	塗材	調合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間 (23℃)	施工方法
1	(P6を参照してください。)					
2	サミブラ 清水	100 0~5	0.08~0.10	1	3時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
3	ニュートーン 清水	100 0~3	0.5~0.8	1	16時間以上	コテ塗り
4	ニュートーン 清水	100 0~3	2.0~3.0	1	0	コテ塗り
5	(金ゴテによる模様付け。)				0	
6	(ダスター刷毛による掃き。)				48時間以上	
7	ニュートーン 清水	100 10~15	0.5~0.8	1	(最終養生) 24時間以上	吹付け

施工要領

工程2. 下塗り

- サミブラは十分にかくはんして、清水を5%以内で加え、粘度調整をしてください。
- ウールローラー、はけまたはエアレス塗装機を用いて、むらなく均一に塗装してください。下地の状態によっては増し塗りしてください。
- 下塗りには、サミブラホワイト、水性ピナクル、カチオンシーラー-EPO、ワイドシーラー-EPO、ピナクルシーラー、ピナクルホワイト、ラフトンエポキシシーラーの使用も可能です。

工程3. 主材基層塗り



- ニュートーンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を0~3%の範囲で加え、粘度調整をしてください。
- 金ゴテを用い、均一にむらなく塗り付けてください。

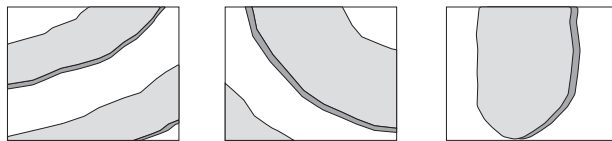
工程4. 主材模様塗り

- 金ゴテを用い、均一にむらなく塗り付けてください。

工程5. 金ゴテ模様付け

- 主材を全体にくばり塗りした後、コテを跳ね上げるようにして大きく段差を付け模様付けしてください。

(例)



工程6. 刷毛掃き



- ダスター刷毛を水に浸し、模様の表面を掃くように段差を滑らかにしてください。この時、はけを水に浸しすぎると模様がつぶれますので、水を切りながら掃ってください。

工程7. 仕上げ塗り



- ニュートーンをハンドミキサーで均一にかくはんし、清水を10~15%の範囲で加え、粘度調整してください。
- 吹付条件
 (ガン…………ラフトン1号ガン、または万能ガン 口径…………4~6mm)
 (吹付圧…………0.3~0.6MPa 吹付距離…………25~50cm)
 ガンノズルを下地面に対して直角に保ち、吹付条件、運行速度を常に一定にしなが
 ら、むらを生じないように、均一に吹付けてください。

(注)

- ※ 塗りつき部は、むらになりやすいですから、主材模様塗り、模様付け、はけ処理を素早く行うか、2~3m×2~3m以内で化粧目地を設けてください。模様の手直しを繰り返しますと、表面乾燥を生じ、正常の塗膜が形成されませんので、ご注意ください。
- ※ 過剰希釈、及び過剰な塗り付け量は、割れなど生じることがありますので、ご注意ください。

備考

- 工程3.主材基層塗りは、吹付けによる塗り付けも可能です。(P9参照)

施工上の注意事項

- 下地は十分に乾燥させてください（含水率10%以下、pH10以下）。
- 気温5℃以下、湿度85%以上の場合は造膜性を低下させますので、施工は避けてください。
冬期の施工では、採暖などで温度を5℃以上にしてください。
- 降雨・降雪が予想されるとき、結露が懸念されるとき、強風（5m/秒以上）のときなどは、施工を避けてください。
- 本施工に入る前に必ず試し塗りをを行い、希釈率・吹付条件、パターン形成条件などを設定し、一定にして施工してください。
- 材料の希釈は指定の希釈剤を用い、粘度調整してください。粘度は、施工性、仕上りに大きく影響しますので、十分に留意ください。
- 施工仕様の所要量及び間隔時間は厳守してください。
- 他の材料の混入は、絶対避けてください。

取扱い上の注意事項

- 取扱い中は、皮膚に触れないようにし、必要に応じて下記の保護具を着用してください。
- 防塵マスク・頭巾・保護めがね・長袖の作業衣・えり巻きタオル・保護手袋・前掛けなど
- 容器から出し入れするときは、こぼれないようにしてください。もしこぼれた場合には、布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 皮膚に付着した場合には、直ちに多量の石けん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化があるときは、医師の診察を受けてください。
- 目に入った場合には、直ちに多量の流水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合には、直ちに医師の診察を受けてください。
- 取扱い後は、手洗い・うがい・鼻孔洗浄を十分に行ってください。
- 容器は密栓し、0℃以上40℃以下で子供の手の届かない一定の場所を定めて保管してください。
特に下記の場所の保管は避けてください。
雨水や直射日光の当たる場所・高温多湿の場所・潮風の当たる場所・凍結の恐れのある場所など
- 捨てるときには、産業廃棄物として各自治体の処分方法に従って処分してください。
- 詳細な内容が必要なときには、製品安全データシート（MSDS）をご参照ください。
- カタログに記載されていない下地や仕様で施工される場合は、塗膜欠陥を起こすことがありますので、使用前に最寄りの事業所へお問い合わせください。

荷姿

ニュートーン 20kg

適用下塗材 [サミプラ 14kg サミプラホワイト 16kg 水性ピナクル 14kg カチオンシーラー-EPO 14kg ワイドシーラー-EPO 14kg
ピナクルシーラー 14kg ピナクルホワイト 14kg ラフトンエポキシシーラー 15kg ビッグストーン下塗材(グレー・ブラック) 20kg]

- つや有り仕上げまたは5分つや仕上げの場合は、下記塗料を塗装してください。

【適用上塗塗料】 エコウレタン、エコシリコン、エコフツ、水性シリコンユニ、水性ウレタンユニ

ラフトンEMエナメル、ラフトンウレタンエナメル、ラフトンワイドフツ、ワイドウレタン ワイドシリコン

エコシリコンクリヤー、ラフトンウレタンクリヤー、ビッグストーン上塗材、1液ワイドウレタン、1液ワイドシリコン

- (注) ※製品改良のため、仕様・塗装機具などを予告なしに変更することがありますので、ご了承ください。
※各製品の容器には、取扱いの注意事項などを記載していますので、必ずお読み頂き正しく安全にご使用ください。



スズカファイン株式会社

営業本部	〒510-0101	三重県四日市市楠町小倉1058-4	☎059-397-2187	FAX059-397-6191
研究開発本部	〒510-0851	三重県四日市市塩浜町1	☎059-346-1116	FAX059-346-4585
札幌支店	〒061-3243	北海道石狩市新港東2丁目17-1	☎0133-60-6311	FAX0133-62-4313
東京支店	〒132-0025	東京都江戸川区松江4丁目25-13	☎03-5661-2211	FAX03-5661-2020
名古屋支店	〒453-0837	愛知県名古屋市中村区二瀬町110-1	☎052-411-1255	FAX052-412-7337
大阪支店	〒575-0031	大阪府四條畷市葺屋398-12	☎072-862-1601	FAX072-862-1561
広島支店	〒733-0833	広島県広島市西区商工センター4丁目6-1	☎082-277-1116	FAX082-277-6217
四国支店	〒763-0083	香川県丸亀市土器町北1丁目36	☎0877-24-4621	FAX0877-24-4624
九州支店	〒811-2304	福岡県糟屋郡粕屋町仲原1572	☎092-938-0071	FAX092-938-0075
仙台出張所	〒989-1305	宮城県柴田郡村田町大字村田字西ヶ丘3-7	☎0224-82-1633	FAX0224-83-6110
郡山営業所	〒963-0724	福島県郡山市田村町上行合字南川田34-1	☎024-956-3306	FAX024-956-7086
新潟営業所	〒950-0063	新潟県新潟市東区上王瀬町1番30号	☎025-271-2345	FAX025-271-2350
北関東営業所	〒355-0811	埼玉県比企郡滑川町羽尾1186-18	☎0493-57-0020	FAX0493-56-4516
千葉出張所	〒285-0813	千葉県佐倉市石川620-1	☎043-486-0096	FAX043-481-3761
多摩出張所	〒191-0062	東京都日野市多摩平3丁目31-10	☎042-581-2155	FAX042-585-1976
金沢営業所	〒920-0356	石川県金沢市専光寺町ヨ26番地3	☎076-267-1922	FAX076-267-1930
静岡営業所	〒422-8036	静岡県静岡市駿河区敷地1丁目26番14号	☎054-236-0825	FAX054-237-5020
三重出張所	〒510-0101	三重県四日市市楠町小倉1058-4	☎059-397-6115	FAX059-397-2100
播磨営業所	〒679-4155	兵庫県たつの市揖保町揖保中474	☎0791-67-1468	FAX0791-67-8866
松山出張所	〒791-8042	愛媛県松山市南吉田町2072番3	☎089-905-6733	FAX089-905-6733
熊本出張所	〒861-3107	熊本県上益城郡嘉島町上仲間394-1	☎096-237-3342	FAX096-237-3347
宮崎出張所	〒880-0912	宮崎県宮崎市赤江飛江田1208	☎0985-50-6840	FAX0985-50-6841
鹿児島出張所	〒890-0073	鹿児島県鹿児島市宇宿7丁目3番32号リバーサイド宇宿103号	☎099-264-3661	FAX099-264-3661
沖縄営業所	〒903-0815	沖縄県那覇市首里金城町2-86	☎098-884-6054	FAX098-887-1687

⑥

URL <http://www.suzukafine.co.jp/>

□本カタログの内容は、改良などのため、予告なしに変更することがありますので、ご了承ください。